

2. 指標設定

成果指標	指標名	市内医療機関の受診率	目標年度	H27	指標の設定理由			
	数値	55%			総合計画/後期基本計画において、基本施策(1-1-2)の目標としているため			
活動指標	指標	a	小児救急休日診療日数	b	休日時間外診療日数	c	救急搬送における市内への搬送率	d
	数値	目標	—	目標	—	目標	50%以上	目標

3. 実績（上段・実績/下段・達成率）

成果指標名	単位	H22	H23	H24
市内医療機関の受診率	%	54.1 %	56.8 %	58.8 %
		98.4 %	103.3 %	106.9 %

活動指標名	単位	H22	H23	H24	
a	小児救急休日診療日数	日	60 日	58 日	72 日
b	休日時間外診療日数	日	365 日	365 日	365 日
c	救急搬送における市内への搬送率	%	55 %	54 %	54 %
d			110 %	108 %	108.0 %
			—	—	—
			—	—	—

4. 課題と対応

課題
医師確保については引き続き取り組む必要がある。
対応（改善点等）
大分大学や大分県と協議・連携をすすめ、市民病院への医師確保を図る

5. 事業費・・・H22～H24（決算額）、H25（予算現額）

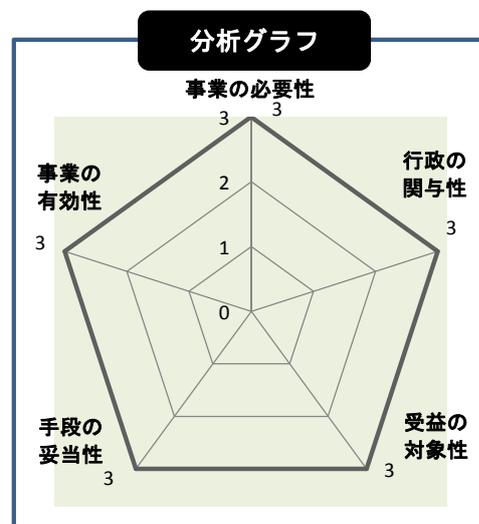
決算額（千円）		H22	H23	H24	H25
		1,386,456	322,384	403,892	388,474
うち経常経費		299,843	312,375	378,564	378,474
財源内訳	国費				
	県費	498,262	21,126	21,131	26,080
	市債	554,800			
	その他	10,951	11,845	8,990	8,973
	一般財源	322,443	289,413	373,771	353,421
	うち経常	285,326	289,404	348,443	348,421
事業費に係る人件費		5,256	1,290	1,288	1,308
事業費に係る人役		1.20	0.30	0.30	0.30

6. H26年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
事業費のほとんどが、県補助金、公立病院があることによる交付税を財源としており、補助金、交付税の算入がある限りでは継続して前年度と同様の基準での事業費が必要。

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 公立病院の経営安定と救急医療、小児救急を提供するため必要である。
② 行政の関与性	責任領域の精査	3 民間による医療の提供が可能であるが、充足していないため
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3 広く市民が利用する病院のため
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 公立病院の経営安定と救急医療、小児救急を提供するため適切である。
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 市内医療機関受診率が増加している。



8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	市民病院の健全経営に資するため、適正な整備を実施し、併せて地域医療の充実を図ること。